

東日本大震災 関連情報（第 25 報）

平成 23 年 12 月 15 日
全国老人クラブ連合会

●東日本大震災に関する、老人クラブ関連の情報をお伝えします

放射能除染に取り組む老人クラブがあります。

- 福島県鮫川村では、落ち葉除去による山林除染を行うことを決め、初回の試みに、村の委託を受けた西野長寿会の高齢者 20 名が取り組むことになりました。熊手や竹ぼうきを使って人海戦術を繰り広げるということです。（別紙「福島民報」参照）

岩手県で、被災地との交流が行われています。

- 奥州市や金ヶ崎町など岩手県県南 5 市町の老連では、津波による被災をした沿岸部の大船渡市、陸前高田市の各老連の会員 45 人を招待して交流支援を行いました。（詳細は、別紙「胆江日日新聞」参照）

●支援活動

支援物資が喜ばれています。

1. 冬に向けてネックウォーマーを届け、仮設住宅で配布しました

〔大阪府柏原市老連 ⇒ 福島県内仮設住宅〕

大阪府老連の機関紙「ねんりん O S A K A」を見た柏原市のボランティアグループから、震災支援に毛糸のネックウォーマー（帽子にもなるもの）を作製するので、老人クラブを通して配布してほしいという話が、柏原市老連に持ち込まれました。柏原市老連では府老連と相談のうえ、福島県内に届けられることになりました。

福島県老連では届いたネックウォーマー 100 個を、11 月 26 日に会津美里町にて実施された「仮設住宅における寺子屋」（子どもとの交流事業）において、主に楡葉町から避難している子どもたちと参加した高齢者に配布しました。きれいに包装されたネックウォーマーをいただいた子どもたちは、早速首に巻いたり、帽子にしておぼっていました。（別紙 福島県寺子屋・大阪 参照）

2. 季節に見合った物を被災地へ [兵庫県老連 ⇒ 岩手県大船渡市老連、宮城県他]

兵庫県老連では9月に開催した「兵庫県高齢者の集い」において、被災地報告として岩手県大船渡市老連 中村会長と県老連事務局を招きました。そのお礼も兼ねて、大船渡市老連へ東播磨ブロック老連が他団体と一緒に手作りした「座布団」100枚を贈りました。市老連では支部をとおして、仮設住宅に配布しました。

(詳細は、別紙「いわて県老連だより」号外第46号参照)

また、クリスマスプレゼントとして、クリスマス仕様の小物入れをブロック老連・市町老連において取り組み、キャンディーを入れて1450個作製しました。岩手県内8市町村老連、宮城県石巻市老連などへ贈りました。



座布団を持って



クリスマスプレゼント

被災地との交流が行われています。

1. 仮設住宅の子どもたちと交流 [新潟県老連 ⇒ 福島県内仮設住宅]

新潟県老連では東日本大震災支援プロジェクト委員会を中心に、11月27日に福島県会津若松市内の仮設住宅を訪ね、福島県老連が実施している「仮設住宅における寺子屋」(子どもとの交流事業)に参加しました。

震災プロジェクト委員会は、大野会長をはじめ、女性文化部会、地域ふれあい事業推進部会および中越地震の経験のあるリーダーにより構成されていて、今回は事務局長を含む8名が参加しました。実際に元気袋を渡している事業に参加したいと福島県老連に伝えて、実現したものです。

当日は、子どもたち一人ひとりに元気袋を手渡し、また紙芝居や絵本の読み聞かせをするなど、集まった子どもたちと交流。「みんな元気でいてね」と願いながら帰路につきました。

(別紙 福島県寺子屋・新潟参照)

2. 女性委員会同士の交流

〔東京都老連女性委員会、福島県老連女性部〕

東京都老連女性委員会では、毎年実施している宿泊研修会を今年はサポートしている福島県を訪ね、県老連女性部を招いて交流しようと、11月9・10日に実施しました。

東京都老連からは永井委員長をはじめとする女性委員55名と増田会長、事務局2名の合計58名が、バス2台に分乗して福島県石川町・母畑温泉を目指しました。福島県老連からは渡辺部会長以下15名が参加しました。

両老連代表の挨拶、参加者自己紹介の後、義援金と元気袋が贈呈され、続いて飯館村など4人の参加者より被災体験が報告されました。その後は、都老連女性委員会で以前から進めている棒体操と、毎年新しい種目に挑戦しているレクダンスの今年度版を紹介し、両老連一緒になって行うという、女性ならではの楽しいひと時を過ごした3時間でした。

(会長会議資料「震災支援活動報告」P23 福島民友新聞記事 参照)



福島県老連 渡辺部会長挨拶



元気袋を渡す、東京都老連
永井委員長

☆添付資料は、データ容量の大きなものは写真を抜粋していますのでご了承ください。